

お客様・パートナー様各位

fusion_place 6.1 リリースのご案内

2017年3月13日
株式会社フュージョンズ

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼を申し上げます。
本日、fusion_place の新バージョン「6.1」をリリース致しましたことをご知らせ申し上げます。

記

1. リリースの位置づけ

バージョン「6.1」は一般向け新機能版です。fusion_place cloud、premium が対象となります。fusion_place standard については提供されません。フルバージョン番号は、6.1.0-S111 です。

2. ご提供方法

弊社サポート窓口（support@fusions.co.jp）にお問い合わせください。お試しにご利用になる場合は、試用ページ（<http://www.fusions.co.jp/products/trial/>）からインストーラをダウンロード頂けます。試用許諾条件・使用許諾条件とも、旧バージョンから変更ありません。既存のバージョンからのアップデートは大変簡単です。後述する「インストール方法」をご参照下さい。

3. 主な機能改善点（6.0 対比）

（1）処理速度・パフォーマンス改善

- ① フォームの計算式で、ループ内からループ外の行や列を参照すると計算速度が著しく遅くなる場合がありますでしたが、処理方式を見直し、改善しました。#799
- ② 作成に時間がかかるメンバリストを使用するループ仕様がフォームの縦軸（横軸）に存在し、そのループ仕様に含まれる行仕様（列仕様）に係るセル範囲（＝行仕様と列仕様の交点）で、データ取得又は反映の対象となるものが多数存在するとき、フォームによるデータ取得に著しく時間が掛かる問題を解決しました。#813
- ③ リクエスト/Web-API のリクエストは、従来、サーバー側では順次処理されていましたが、照会系処理については並列処理されるようにしました。ただし、同一アカウントによるリクエストは従来通り順次処理されます。#759
- ④ サイズの大きな（数 GiB 以上の）データベース使用時、不要データ削除処理が極端に遅くなる問題を解決しました。#816
- ⑤ 元帳更新履歴が多い場合における元帳版系列圧縮処理の処理速度を改善しました。#817
- ⑥ 過去のバージョンにて実施したサーバ側での処理要求（＝リクエスト）のトランザクション分割による同時実行性改善(#612)を、パッケージデータのチェック処理と提出処理にも適用しました。これにより、これらの処理の多くの部分が並列実行されるようになります。#810

（2）フォームの機能改善

- ① テキスト式のセル範囲オブジェクトに is_open メソッドを追加しました。これにより該当セル範囲について期間がオープンされているかを検査できます。#263
- ② テキスト式に、文字種の判定を可能にする関数を追加しました（@num_of_chars_of_type 及び@num_of_listed_chars）。これらの関数を用いれば、フォーム画面に入力された文字列値が大文字英数字のみであった判定が可能になります。#804
- ③ フォーム画面上でのチェックで、誤りと注意の両方のメッセージが同時に表示されるようにしました。5.2 での修正(#262)に付随して、エラーがひとつでもあると警告レベルのメッセージは表示されないようになっていました。#757
- ④ フォームのローカル元帳マスクで、ディメンションの@POV メンバ、@RKEY メンバ、@participant_label 関数を使用できるようにしました。#772

- ⑤ フォームのローカル元帳マスクで、相対期間ディメンションと表示形式ディメンションを使用できるようにしました。これにより、例えば、ひとつのメンバーリストで縦軸又は横軸に集計期間とリーフ期間を展開し、そのうちリーフ期間のみ入力可能にするといったことが可能になります。#784
- ⑥ ブラウザからデータインポートした場合に、重要度を指定してログデータを絞り込むことができるようにしました（リクエストでのデータインポートでは従来から可能）。#787
- ⑦ フォームでのインポート仕様に、書き込み先セルの期間がクローズされている場合、警告とせずスキップする、というオプションを設けました。#797

(3) ワークフロー（業務プロセス）管理機能の設定の柔軟性向上

ワークフロー機能におけるパッケージのフォームリストは複数の役割を担っているため、設定が複雑になる場合があります。その点を考慮し、パッケージ定義において、以下の目的に対してそれぞれ別のフォームリストを適用可能としました（デフォルトでは、現在の通り、主フォームリストがすべての目的に適用されます）。#806

- ・主フォームリスト（入力／バリデーション用）
- ・提出データ範囲定義用
- ・計算処理用

(4) Excel-Link の機能改善

- ① Excel-Link のデータ反映処理において、シナリオ・期間がクローズされていることにより書き込み元帳不可のセルに対して Excel-Link から書き込みしようとした場合にエラーメッセージを表示し、そのセルへの書き込みのみならず書き込み要求全体をキャンセルするオプションを設けました。当機能を有効化するには、リンク領域定義にて「期間クローズによって値を反映できないときはエラーとする」にチェックして下さい。また、ロックされていないか計算式が存在するセルのみがチェック対象となりますのでご注意ください。#760
- ② Excel-Link API に、関数 FP_GetParticipatsForCurrentUser を追加しました。これを用いると、Excel-Link で現在ログインしているユーザが権限を有する業務責任単位の一覧を取得することができます。#796

(5) リクエスト及び Web-API の機能改善

リクエスト及び Web-API に、業務責任単位及び業務責任単位別実行権限のエクスポート機能を追加しました。#814

(6) システム運用機能の改善

- ① クライアントログに、サーバへのリクエストの送信開始時刻を表示するようにしました（サーバとの通信に要した時間を正確に把握するため）。#795
- ② クラウド環境で大量データをインポートしようとするときタイムアウトが発生することがありますが、この時に表示されるメッセージ「java.io.IOException: Premature EOF」が分かりにくいので、分かり易い表現に変更しました（タイムアウト自体の緩和についてはクラウド環境の設定変更にて対応します）。#805
- ③ H2 データベースの CACHE_SIZE の設定が難しいため、fusion_place サーバ起動時に自動設定するようにしました。server.xml のデータベース URL で設定した CACHE_SIZE は無視されるようになります。#818
- ④ サーバ側での非同期処理の実行状況を確認できるようにしました。マネージャのメニューから、[ファイル]-[サーバサイド非同期処理...]を選んで下さい。従来は、サーバ側での非同期処理中にクライアントとの接続が切れると、サーバ側で処理は継続しているにも拘わらず、クライアントからその状況を把握できなくなっていました。#819
- ⑤ サーバ側での処理にタイムアウト(600 秒) を設定しました（リクエスト /Web-API 処理を除く） #821

(7) ユーザーインターフェースの改善

- ① フォームのインポート仕様のフィールドラベルの左側にカラム名（A1 または R1C1 参照形式）を表示しました。インポートデータを Excel で編集する際、フィールドとの対応が分かり易くなります。#768
- ② マネージャの会計年度表・シナリオ表・ディメンションのプロパティ画面の表示行数を増やしました。#783 #791

他にいくつかの不具合修正を織り込んでいます、詳しくはインストーラに添付された以下のファイルをご覧ください：

change-log.6.1.0-S111.txt

上記ファイルは、インストーラの zip ファイルを展開した際に現れる change-log フォルダにあります。

4. 新バージョンへのアップデートに際してのご留意事項

① Excel-Link アドインファイルの差し替え

当バージョンでは、Excel-Link アドインファイルが更新されています。当バージョンをご利用頂くには、Excel-Link を利用している各クライアント PC で、アドインファイルを差し替える必要がございます。

コントリビュータの「Excel 起動」ボタンを押下する以外の方法で Excel-Link をご利用のユーザは、アドインファイルを差し替えて下さい。

マネージャ/コントリビュータ/ブラウザいずれかを起動し、メニューから[オプション]>[Excel-Link 組み込み]を実行すると、アドインファイルが差し替えられます。その際は、Excel を終了しておいて下さい（Excel が起動しているとその終了を促すメッセージが表示されます）。

コントリビュータのみご利用のクライアント PC では、上述の手続きをあえて実行頂く必要はございません（Excel 起動ボタン押下時に自動的にアドインファイルが差し替えられます）。

なお、Excel-Link のバージョン番号は「6.1.0」となります。

② リクエストの新機能の利用(fusion_place premium, cloud のみ)

リクエストについて、今回、新機能による変更はございません。旧バージョンのリクエストを引き続きお使いいただけます。

5. インストール方法

インストール手続き自体は旧バージョン(6.0.0 以前) と変わりませんが、インストールの前に、旧バージョンでお使いのデータベースをバックアップするとともに旧版のソフトウェアをアンインストールして頂く必要があります。

詳細は、本リリースのインストーラに同梱されているユーザマニュアル (fusionplace-usermanual.chm) の以下の項目をご参照下さい：

「fusion_place をセットアップする」

> 「02. セットアップ手続き」

> 「04. fusion_place をバージョンアップする際の手続き」

また、インストール後、ユーザが fusion_place にログインする最初のタイミングで、データベースが最新のレイアウトに移行されます。移行処理は完全に自動的に行われますので、ユーザが手を煩わせる必要はありませんが、以下の点にご留意下さい。

- ① データベースに含まれるデータ量が大きい場合、移行処理に数分かかることがあります。
- ② 移行されたデータベースファイル群を、もとのバージョンで使用できるレイアウトに戻すことはできません。

以上